

手技作品募集に就いて

五二

目白幼稚園 和田 實

舊臘、本協會で、例のフーベル賞を懸けられた手技製作品を募集され、其應募品の審査に關係しました爲めに、感想を書く様にご云ふことでした。夫れでペンを探つて見たものゝ餘り大した感想もありませんが、少しは物して見ませう。

大體、手技作品としては左記二通りのものが出る可き筈だと思ひましたが、

一、製作された作品を玩具として、之を玩弄することに重きを置く可きもの

二、製作することに重きを置いて成績物は、唯鑑賞することに止まるもの

集まつたものゝ多くは、右の第二種に屬するものが多くて、第一種に屬するものは殆んど、無かつたこと云つてもよい位に、妙いものでした。夫れで其材料の方から見ても、自然物を使用したものは可なり色々ありましたが、矢張、多い

のは何ご云つても紙を材料としたものでありました。木材を材料としたものに至つては、殊に稀で僅に二三點に過ぎませんでした。

夫れで變つた趣向としては、粘土を平にのばした上に種々の色をした小石を竝べて竝べ方遊びをしたもので、(確か、下谷の竹町幼稚園であつたかと思ひますが)、東京市内の幼稚園では數年前から實行して、面白い圖案や模様を作つて遊んで居るのを見ましたが、まだ一般には普及しては居ない様で、一顧の價値ありご感じました。入賞の分は審査員諸氏の批評點を合計したところで等級が定められたものですから、極めて公平な評價ですが、然りして、一等級二等級で何れだけの價値相違があるかご云ふことは餘り判つきりごは云はれないと思ひます。マア各等級を取り去つて、兎に角、入賞ご云ふことで、一括して考へて丁度よいのではないかと思ひました。